

「言葉」のありがたさ

山形県尾花沢市立尾花沢中学校

三年 寛

健太郎

「コミュニケーション」という言葉を辞書で調べると次のように出てくる。

「気持ち・意見などを、言葉などを通じて相手に伝えること。通じ合い。」

これは、私たちが周りの人と関わっていく中で最も大切なものだ。しかし中には、それが苦手な人たちがいる。僕の弟、太陽はその一人だ。太陽は自閉症を抱えている。

自閉症とは、コミュニケーションや言葉の発達の遅れ、対人関係の障害、強いこだわりという三つの特徴がある障害のこと。具体的な症例を挙げるならば、コミュニケーションや言葉の発達の遅れであれば、言葉を話し始めるのが他の子と比べて遅い、人の話をオウム返しにする、呼んでも反応しないなどが挙げられる。自閉症を根本的に治す薬や手術などの医療的な治療法は、現在のところまだ開発されていない。

自閉症の症状が太陽に出たのは二歳前だったという。それまでは、名前を呼べば返事をする事ができる普通の子どもだったそうだが、ある日突然それができなくなっていた。名前を呼んでも返事はしないし、様子がいつもと違う。不審に思っ

て、自閉症だったという。このように、自閉症の症状は二歳〜三歳にかけて出ることが多い。

その中でも太陽は症状が重い。今年十三歳になったが、まだ話すことができない。彼は四年に一度、IQのテストを受けている。それは、知的機能の遅れがあるかどうかを知り、適切な学習指導や支援を受ける際のヒントを得たり、疾患や障害の有無を鑑別するヒントを得たりするために使うものだが、彼はコミュニケーションが全くできないため、どうしても点数が低くなってしまう。

僕は幼い時からずっと太陽と一緒に過ごしてきた。だから、ゆつくり少しずつではあっても、彼は彼なりに人とコミュニケーションを取れるよう成長してきたことを知っている。例えば自分が気になる言葉を見つけた時、太陽は僕や僕の両親の手を取り、その文字が書いてあるところまで連れていく。そしてその言葉を指でなぞり、僕たちに読ませる。なぜこんなことをするのだろう。彼は言葉を発することはできないが、その文字を言葉にして聞いてみたいと感じているのだろう。もしくは、彼は少しパソコンが使えるようになってきているので、その言葉を検索するのに、どのような発音でどのように打てば出てくるのかを知りたい。そう思っているのではないかと感じる。

彼は、このような行為を一度や二度ではなく、何十回、何百回と繰り返す。知らない人は驚くだろうが、これが自閉症の特徴の一つでもある「強いこだわりを持つ」ということの表れなのだ。

僕は最近まで、「自分が人とコミュニケーションが取れなかったら、などと考えたこともなかった。彼は重度の自閉症のため、大人になっても人と会話が

ることができないまま生きていくことを意味する。

「それがもし自分だったら」と、この頃僕は考える。僕にとっては、それはまるで生き地獄のようなものだ。僕は決して人とコミュニケーションを取るのが得意な方ではないが、それでも毎日家族や友だちと話し、笑ったりけんかしたりしながら生きている。それが全くできなくなるといのがどういふことなのか、正直怖くて想像もできない。人と普通に会話ができるというそれだけのことが、どんなにありがたいことかと思う。

他の人はどうだろう。五体満足で生まれ、普通に学校に通い、ごく普通の生活を送っている人は、今日に至るまで、人と会話ができるありがたさなど、考えたこともないに違いない。

人はみんな平等で、誰にでも幸せになる権利がある。それなのに、普通にコミュニケーションを取れる人が、その言葉を、人を傷つけたりいじめたりすることに使うのはとても愚かなことだ。僕たちは、言葉を使うことができるありがたさと言葉の持つ力を知り、大切に使わなければならない。そのことに太陽が気づかせてくれた。

これから先、太陽は今よりもっと大変な生活を送ることになるだろう。残念なことだが、時には周りから変に思われたり、差別的に見られたりすることもあるかもしれない。それでも彼は、自閉症とつきあいながら生きていくしかないのだ。僕はそんな彼に何をしてやれるだろう？彼の人生がよりよいものであるよう、これからは家族とともに支え、応援していこうと思う。

作文を書くに当たって

テレビやニュースで、イジメや言葉の暴力による事件を見ていて、言葉が話せなくても強く生きている人たちがいることを知ってもらいたかったのがきっかけで書きました。特にイジメで自殺をしてしまう人は、もっと言葉を使って、誰かに助けを求めてほしいと思います。